

門脈圧亢進症に伴う肺動脈性肺高血圧症(PoPH)とウイルス性肝疾患の関連の
調査に関する研究
(中間報告)

研究協力者 厚川正則 日本医科大学付属病院

研究要旨

肝疾患の背景と PoPH の存在には有意な相関はなく、ウイルス性肝疾患患者においても PoPH のスクリーニングは必要であると考えられる。CCl4 誘導性肝硬変モデルマウスにおける肝臓の BMP9 発現抑制の分子機構、BMP9 補充による治療効果を解明する。また日本人の PoPH 症例における血清 BMP9 値の臨床的意義を明らかにする。

A. 研究目的

我々は、肝硬変患者における PoPH のリスク因子として、息切れの自覚症状あり、女性、BNP 高値が重要であることを報告した(Hepatology International. Atsukawa M et al.)。しかしこれらの因子は PoPH を予測するための特異度が高いものの感度が低値であった。よって、より感度の高い因子を明らかにする必要がある。今回の研究計画では、肝星細胞における BMP9 発現抑制が門脈肺高血圧症の鍵因子であるという仮説を、病態生理学的・臨床的アプローチによって検証する。

B. 研究方法

CCl4 誘導性肝硬変モデルマウスにおける肝臓の BMP9 発現抑制の分子機構、BMP9 補充による治療効果を解明する。また、日本人の PoPH 症例における血清 BMP9 値の臨床的意義を明らかにする。

(倫理面への配慮)

現在は動物実験のみ

C. 研究結果

未到達

D. 考察

ウイルス性肝疾患を含む肝硬変患者における PoPH の存在を高い感度や特異度で予測しうるバイオマーカーを解明して、臨床上の PoPH のスクリーニングがより簡便に駆ることを期待したい。

E. 結論

未到達

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

なし

